

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中は皆様より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、被災地の復興や原発問題など、解決すべき課題が目の前に横たわる中、欧州債務問題、円高の定着、領土問題に起因する日本企業の被害など、製造業に対する逆風は、最早一企業の努力だけでは逃れがたいものとなりました。

このような不安定な環境のもと、当社は全社運動「DENKA100」に取り組んでいます。「カーバイドチェーンやスチレンチェーンの収益を基礎として、電子材料や機能・加工製品などの高収益製品を、成長分野と成長地域で伸ばす」という基本方針は変えませんが、市場の変化に対応した成長戦略の軌道修正を早急に行います。詳細は取り纏め作業中ですが、ボリュームゾーン製品生産の海外シフトと特殊・ハイエンド品の国内生産特化を図る「生産体制の最適化」と、生き残りを賭けた「徹底したコスト総点検」、「新たな成長ドライバー」となる製品群へリソースを集中させ、2013年は新たなスタートの年にします。

しかしながら戦略があってもそれを演じるのは人です。社員一人一人が強い気持ちを持ってチャレンジできるよう、賃金制度改定などの新しい人事制度をスタートさせました。

一方で来年春完成を目指して町田地区のデンカイノベーションセンター本館建設工事を始めました。社会に広く開かれた施設として地域や国内外の方々との交流を深め、社会の発展にも貢献して参ります。

化学工業はエネルギー多消費型産業として環境負荷低減と省エネルギーに努めなければなりません。当社は水力発電所の増発電などへの取り組みに加え、本年はメガソーラー事業にも参入してクリーンエネルギー利用拡大を一層推進します。

東日本大震災発生からほぼ2年が経とうとしています。被災地はいまだ復旧・復興の途上にあり、当社は事業を通じた貢献はもとより被災地でのボランティア活動も継続します。業績を上げることだけが企業の目的ではありません。業績向上と社会的責任の遂行は車の両輪であり、それぞれが企業の存立を支えるものです。信頼できるモノづくり企業を目指して社会からの要請に応えて参ります。

最後に、皆様の健康とご多幸をお祈りして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成25年1月1日

電気化学工業株式会社
代表取締役社長 吉高紳介